



【特別支援学校のセンター的機能】

～しろがね特別支援学校による地域支援～

特別支援学校のセンター的機能として、専門アドバイザーが中心となり、前橋市・渋川市・吉岡町・榛東村の小学校・中学校・高等学校・幼稚園・保育園を訪問したり、保護者の悩みを聞いたりして、発達の気になる子ども達についての継続的な支援を行っています。

専門アドバイザーの仕事を紹介します



小学校の通常学級のお子さんで、片付けがとても苦手なお子さんがあります。

先日、巡回相談で小学校3年生A君、男児のクラスを参観したときのことです。

授業中、首に教科書をはさみながら説明を聞いています。質問の答えをすぐに言ってしまいますが、時々、良い意見も提案してくれます。友達の作文が読まれると、「え、俺のは？」と言って、悔しがります。時々、「あれー」と声を出して、周りがくすくすと笑うクラスです。

担任の相談としては、「朝の用意ができない（ランドセルから荷物を出して引き出しに入れ、ランドセルをロッカーに入れる）」というもので、具体的に話を聞くと、ランドセルが置きっぱなしで、話をしているそうです。さらに、前の日に図工があれば机にのりが張り付いていたり、床に絵の具がついています。また、書道があった次の日は床に墨がついており、結局、朝の用意に加え、机や床をふく活動が加わります。担任は毎日、そばについて、声をかけて本児にやらせますが、結局、1時間目の開始時間に間に合わず、「先生、待って」といって授業を止めようとしています。

担任は実際に手を出して朝の用意や掃除を手伝った方が良いか、それとも現在のように言葉で促して本児にさせた方が良いか、迷っていました。職場の同僚に相談したところ、自分でできる力があるのだから、教師は手を出さずに自分でさせた方が良いと言われて、さらに、迷っているそうです。

どうすればよいでしょうか。

学校の主の目的は勉強をすることです。皆と一緒に勉強し、勉強がわかることをA君はとても喜びます。1時間目の授業に間に合わないことはA君にとっても、教師にとっても良いことではありません。

目標は、A君が気持ちよく授業のスタートを切ることです。そのためには、前日にA君の床の絵の具や墨の汚れを取りたいですね。そこで、図工や書道の時間の後、あるいは、帰りの会の前にグループや隣の友達同士で床を拭かせてから終わりにすると、うまくいきます。A君は手伝ってもらうのが大好きで、周りの友達も楽しいA君を手伝うのが好きです。グループごとにきれいになったかどうかをチェックすれば、ゲーム感覚で教室中がきれいになります。

相談依頼の件数(外部支援) H30.4.1～5.31まで

対象	幼稚園 保育園	小学校	中学校	高等学校	その他	計
件数	19件	69件	4件	0件	1件	93件

(その他は関係機関からの相談および研修の講師依頼)

日頃から、本校のセンター的機能の御理解と御協力をありがとうございます。障害の有無にかかわらず、子どもの実態把握・指導内容・指導方法について悩んでいることがありましたら、お気軽に御相談ください。

お待ちしております。



群馬県立しろうがね特別支援学校

専門アドバイザー 尾岸 純子

電話 027-268-6111

FAX 027-268-6113

mail shirogane-snes01@edu-g.gsn.ed.jp